

## 審査結果報告書

平成 26 年 1 月 31 日

主 査 氏 名

井上 俊介



副 査 氏 名

菊池 史郎



副 査 氏 名

片桐 真人



副 査 氏 名

大部 誠



1. 申請者氏名 : 田中 賢明

2. 論文テーマ : Radiotherapy for patients with unresectable advanced hepatocellular carcinoma with invasion to intrahepatic large vessels: efficacy and outcomes  
(肝内大脈管浸潤を伴う切除不能進行肝細胞癌に対する放射線治療、その効果と転帰)

3. 論文審査結果 :

申請された論文は、肝内大脈管浸潤を伴う切除不能進行肝細胞癌に対する放射線治療の効果を検討したものである。進行した肝内大脈管浸潤合併肝細胞癌は予後不良であり、有効な治療は確立されていない。申請者らは、このような症例に対して放射線治療単独での治療を行っており、79例を後ろ向きに解析し、局所の奏効率、奏効に寄与する因子、生命予後、生存寄与因子、有害事象を検討した。

結果として、奏効率45%、生存期間中央値9.4ヶ月と、併用療法に劣らない効果が得られた。奏効寄与因子は肝予備能であり、生存寄与因子は局所の治療効果、AFP、単発病変、肝予備能であった。有害事象は限定的であった。この結果から、肝細胞癌の脈管浸潤に対する放射線治療は、重篤な副作用のない、患者に優しい有用な治療と結論された。

プレゼンテーションに続き、前治療の効果と放射線治療の効果の関係、肝予備能と治療効果の関連の背景、今後想定される治療戦略などについて質疑が行われた。多数例に基づく臨床的に意義のある研究であり、プレゼンテーションおよび質問に対する回答も適切であった。本研究は学位論文としてふさわしいと判定された。